

当事者団体ヒアリングでの主な御意見・御要望について

1 ヒアリング調査に御協力いただいた当事者団体

- ・春日井市肢体不自由児・者父母の会
- ・春日井市聴覚障害者福祉協会
- ・春日井市手をつなぐ育成会
- ・春日井地域精神障がい者家族会「むつみ会」

2 調査方法

ヒアリング調査シートを提出してもらい、後日、聞き取り調査を実施
(春日井市聴覚障害者福祉協会は、シートの提出のみ)

3 主な御意見・御要望

(1) 春日井市肢体不自由児・者父母の会

- ・引き続き、市職員に父母の会との意見交換会に出席してほしい。
- ・現在、総合福祉センターで活動している。施設ごとに利用するための登録が必要なので、一元化できないものか。活動場所を提供してほしい。
- ・市民に対する障がい理解のための啓発（公共施設や店舗、娯楽施設を利用することへの理解）を進めてほしい。
- ・新型コロナウイルスに感染してしまうと、サービスの利用が困難になってしまう。感染した親が子どもの介助をしなければならなくなってしまう。医療療育総合センター中央病院に入院できないと、家で見るしかなくなってしまう。医療機関に連れて行けないので、コロナの検査キットを配布してほしい。
- ・障がいがあると、がん検診等の検診が受けづらい。どこの医療機関で受けたらよいか（受けられるか）悩む。保健センターでがん検診を受けることはできないか。
- ・重症心身障がい児・者、医療的ケア児・者に対応している施設、グループホームを拡充してほしい。親がいなくなっても、年金で生活できる場所があるとよい。
- ・医療的ケア児・者に限らず、障がい児・者の事業所のスタッフの増員、受け入れの拡充をしてほしい。

- ・医療的ケアに対応できる看護師、ヘルパーの増員、育成をしてほしい。
- ・計画相談を担う人材の増員、育成をしてほしい。
- ・レスパイト入院、ショートステイを受け入れてくれるところを拡充してほしい。市内の総合病院でもレスパイト入院、ショートステイに対応してもらえるとよい。
- ・通学バスに長時間乗車しているのは大変。学校がもう少し近くにあるとよい。毎日の送迎が大変。送迎が難しい日やたまの日に、移動支援のサービスを通学に利用できるとよい。
- ・市内の道路等の段差解消、医療機関や店舗の入口の拡大・段差解消を進めてほしい。
- ・駅周辺の公共駐車場の障がい者向け駐車スペースを増やしてほしい。
- ・日常生活用具を申請する際の細かい要件が分かりにくい。
- ・補装具の決定がもう少し早くなれないか。他県では、座位保持いすと座位保持装置が別々に申請できると聞いたので、そのようにならないか。
- ・避難所で人工呼吸器や吸引器を使用する際の電源を確保してほしい。
- ・災害時にどこに避難したらよいか分からない。
- ・障がい児・者に関わる人に、福祉施設等を見学してもらい、障がいを理解してほしい。
- ・子育て支援センターに、医療的ケアに理解のある人や相談できると人がいると利用しやすい。
- ・福祉応援券という名前が、「障がい者です。」と言っているようで、利用をためらってしまう。プリペイドカードの方が使いやすいという意見もあった。

(2) 春日井市聴覚障害者福祉協会

- ・市内のスーパーや薬局等にコミュニケーションボードを配布したい。協会ではボードの案を作成するので、配布に協力してほしい。
- ・春日井市民病院、民間個人病院、医師会、薬剤師会等で手話の出前講座を開催したいので、協会と先方との橋渡しをしてほしい。
- ・医療機関に、聴覚障がい者や手話通訳に対する理解をさらに深めてほしい。
- ・聴覚障がい者でも安心して過ごすことのできる介護施設を整備してほしい。
- ・市の各部署への問い合わせ、相談をメールやFAXでも対応してほしい。市からの通知にはFAX番号を明記してほしい。チラシやポスターには、手話通訳があると明記してほしい。

- ・行事に際しては、その行事全体に手話通訳をつけてほしい。
- ・公共施設にお知らせランプ（災害時）を設置してほしい。
- ・防災訓練や春日井まつり、福祉のつどい、各種手話講座といった、手話を知ってもらう機会を今後も継続していきたい。
- ・手話通訳者派遣の派遣申請を 24 時間受け付けてほしい。
- ・緊急時の手話通訳派遣の公的な F A X 番号もしくはメールアドレスを設置してほしい。
- ・手話のできる正規職員を配置してほしい。春日井市民病院に手話通訳者を設置してほしい。
- ・各避難所に聴覚障がい者用情報受信装置「アイドラゴン」を設置してほしい。

(3) 春日井市手をつなぐ育成会

- ・以前は育成会主催で事業所展をやっていたが、春育フェアのように市主催で開催してほしい。
- ・検診（特に子宮がん検診や乳がん検診）を受けることができない障がい者が、安心して検診できるような方法はないか。血液検査や尿検査以外の検査を受けるのは難しい。C T やMR I、抜歯でも全身麻酔を要する。病院に連れて行くことも難しい障がい者もいる。
- ・グループホームの体験利用の際の送迎の問題を解決したい。体験利用の場合は、公共交通機関で行き来できる場所にあつた方がよい。
- ・福祉応援券が、障がい者の自立のために本人が使うことを想定しているのであれば、知的に障がいのある人には計算が難しく使いづらい。プリペイドカードの方が使いやすい。もう一度現金給付を検討してほしい。
- ・計画相談のモニタリングが電話のみであったり、担当者がよく変わる事業所もあつたりして、障がいの特性を理解してもらえているのか不安。
- ・児童発達支援や放課後デイサービスの受給者証が、発行されたら発行されればなしで、本当に必要な人だけに発行されているのか疑問に思う。発達していく過程で不要になる人もいるのではないか。
- ・放課後デイサービスを学習塾のように利用している人もいる。一方で、放課後デイサービスを利用することで親が働きやすくなり、生活を維持できている人もいる。本当に必要な人が利用できなくなることがなければよい。

- ・学校支援員を増やしてほしい。学校支援員が増えれば、特別支援学級ではなく、普通学級で過ごすことのできる児童も増えるのではないかと。
- ・B型の事業所について、工賃が高額であったり、送迎があったり、昼食が無料であったりと、サービスの充実している事業所が増えているが、このまま続くのか不安。
- ・KIDS COLOR が取り組んでいる「春日井市における民間との協働による障害者生涯学習プログラムの開発」の成果を活かし、障がい者も参加することのできる生涯学習の場を増やしてほしい。
- ・シティバスの本数が少なく、通勤、通所に使いにくい。遅刻や早退をしなければならない。
- ・町内会活動等の縮小により、障がい者の存在を地域住民に知ってもらう機会がない。
- ・当事者団体連絡会で連携している団体以外の団体と交流連携する機会がない。
- ・知的障がい児・者を優先的に受け入れる福祉避難所が3か所しかなく、多くの障がい者が避難できるとは思えない。避難所までたどり着くのが難しいと思う。避難できない時はどうしたらよいか考えてほしい。避難所にたどり着いても、集団の中で過ごすことが難しい。
- ・医療的ケア児等が利用できるレスパイト入院やショートステイが必要。

(4) 春日井地域精神障がい者家族会「むつみ会」

- ・当事者団体やボランティア団体に、利便性のよい活動場所を無償で提供してほしい。東部ほっとステーションのような、ショッピングセンターなど人が集まりやすく、買い物などの他の目的も果たせるところがよい。
- ・保健所が行っていた啓発・訴求をめざした精神障がい者を対象にした市民ボランティア・養成講座を再開してほしい。
- ・高齢化した親のため福祉センター行事の参加をしやすくシティバスの路線を見直してほしい。
- ・勉強会に、市から医師、社会保険労務士、薬剤師を派遣してほしい。3回程度のシリーズ学習会にして、毎年（毎回）派遣してほしい。薬の副作用や後遺症の相談が多いので、薬剤師・医師の派遣を望む。当事者は経験に基づく話をするが、専門家は専門的な知識に基づき話をするので、聴いている人の受け取り方が変わる。

- ・市の職員も会合に参加してほしい。
- ・市や社協と協働して、当事者（家族）に年数回情報を発信（郵送）したい。協働することで、講演会、セミナー、学習会等の情報を提供し多くの当事者（家族）との繋がりを拡大し社会的孤立を防ぎたい。
- ・春日井市民病院にも精神科病床（緊急時に限定した入院対応）を作ってほしい。現在市内に1精神科病院しかなく緊急時の対応が遠い市外しかなく不安である。
- ・精神科病院に、患者・家族の社会心理教育プログラム（地域移行や就労支援、退院時の支援や家族対処法等）を毎月定期的に実施するよう市から依頼してほしい。
- ・県内の精神科病院について、対応専門領域や病気特性に特化している説明書があるとよい。
- ・中学生、高校生の変化や様子に精神に起因する不安を感じている家族等が、早い段階から相談することができる専門職で構成された機関があるとよい。
- ・中学生、高校生の年代への支援が薄いように感じる。精神疾患への学習時間追加を。
- ・精神保健福祉士が配置された精神障がい寄り添うグループホーム、施設を整備してほしい。
- ・障がい年金で生活できる制度設計をしてほしい。
- ・住宅の契約に関して、公的な保証人制度が作れないか。
- ・基幹相談支援センターしゃきょうと障がい者生活支援センターまあるの専門スタッフを増やし、相談体制を充実してほしい。
- ・障がい福祉課の窓口に来た人に、当事者団体の情報等相談先の情報提供をしてほしい。
- ・障がいの有無にかかわらず、保護者の希望により、他の児童と一緒に教育を受けられるようにしてほしい。
- ・ノルマを課すB型事業所があると聞いたので、指導してほしい。
- ・春日井市周辺に職業訓練施設を整備してほしい。（豊川市は遠い。）
- ・A型、B型に行くための（前段階の）支援があるとよい。
- ・就労をしてからうまくいかないことに対処・調整してくれる人材の養成に予算をつけてほしい。（ジョブコーチのような人材）
- ・精神障がい者向けのレスパイト入院を整備してほしい。ショートステイは、本人の状態が安定していないと受け入れてもらえない。

- ・小学生のうちから、障がいに関する教育を取り入れてほしい。
- ・町内会や自治会の役務について、一定の障がいのある人は免除するよう、市や社協でガイドラインを示して、指導してほしい。役務がこなせず、地域で浮いてしまったり、これらの会に入ることができなかつたりしてしまう。
- ・障がい年金とB型の工賃だけでは、グループホームの利用料や携帯電話料金、小遣いといった費用を賄うことができないので、グループホームの利用料が下がるとよいと思う。
- ・自動車税の減免対象を、1級だけでなく2級も対象にしてほしい。対象になるまでの間、市独自で自動車税を助成する予算をつけてほしい。